

算数科

昨年度の取り組みと成果と課題

【 成果 】

- ・習熟度別少人数学習で進めた。児童の学習状況に応じて指導したことなどから、一人一人の学習の状況が把握しやすく、きめ細かい指導ができた。
- ・一人一台のクロームブックを活用し、個々の課題に応じた演習問題を行うことができた。
- ・放課後補習や土曜補習などの継続的な個別指導の積み重ねで、基本的な計算の力を徐々に身に付けることができた。

【 課題 】

- ・文章題を正確に読み取ることに課題がある。デジタル教材だけに頼らず、具体物や半具体物を扱う時間を十分に取り、図や言葉の式に置き換える学習に段階的に結び付ける必要がある。
- ・低学年では時間と時刻の学習が特に課題である。学校生活や日常生活に効果的に結びつける働きかけや、興味・関心を引き出す学習を組み立てていく必要がある。
- ・中学年から高学年にかけて数量関係領域に課題がある。二つの数量関係を、児童自らが数直線図や表などを活用できるように指導をしていく必要がある。また問題解決学習の思考の流れが分かるノートづくりにつなげられるようにする。

大田区学習効果測定の結果分析 達成率（経年比較）

	令和5年度結果	令和4年度結果	令和3年度結果
第4学年	≒	△	
第5学年	≒	≒	≒
第6学年	≒	△	△

学習状況の分析

○知識・技能

- ・どの学年も、おおむね目標値に達しており、4年生と6年生に関しては全国平均正答率を上回っている。問題別に分析すると、4年生では大きい数のたし算・ひき算、かけ算等の計算問題、5年生では小数のしくみや、数直線上の分数を読み取る問題、6年生では小数・分数の計算問題の正答率が低い傾向にある。

○思考・判断・表現

- ・どの学年も、おおむね目標値に達しており、4年生と6年生に関しては全国平均正答率を上回っている。問題別に分析してみると、5年生では 180° より大きい角の大きさを正しく求められていなかった。6年生では単位量あたりの大きさをもとに、面積と人数の割合を求められていなかった。

○主体的に取り組む態度

- ・学習効果測定において、数値的には目標値に対して4年生、6年生は上回り、5年生は下回っている。タブレットの活用や補習教室、算数タイム 家庭学習で既習事項の定着を図る活動を繰り返し行っていく必要がある。

授業改善のポイント（観点別）

【 低学年 】

○知識・技能

- ・計算などの基礎的な力が定着するように、朝学習の時間を活用して、習熟に応じた問題のプリントやタブレットドリルなど繰り返し練習を行う。
- ・長さや時刻、水のかさ、図形について教科等横断的な視点で扱い、日常生活において積極的に活用させる。
- ・ICTを導入することによって文章だけでなく視覚的に問題を捉えることができるようにする。

○思考・判断・表現

- ・文章題については、「あわせて」「のこりは」「ちがいは」などのキーワードに着目しながら具体物や半具体物を操作することにより、考える力を高めていく。
- ・文章題に対して、絵や図に表して考えながら解決する習慣を身に付けさせる。

○主体的に取り組む態度

- ・数学的活動を通して算数の楽しさを感じられるよう、問題提示の仕方を工夫する。さらに、身の回りのものや具体物、ブロック、おはじきなどを用いた活動を積極的に取り入れていく。
- ・具体物や半具体物の操作活動を通して、自力解決での達成感や成就感が得られるようにする。

【 中学年 】

○知識・技能

- ・計算の処理能力を高めるために、朝の算数タイムや補習の時間を活用し、個々の習熟に応じた四則計算の課題に取り組ませる。
- ・大きい数の筆算では、算数スタンダードを作成し繰り返し上がりや繰り返し下がりを書く位置を学校全体で統一していくようにする。
- ・かけ算の筆算では、繰り返し上りの見落としによるミスを防ぐため、マス目を意識した指導を行う。

○思考・判断・表現

- ・文章題については問題場面のイメージがしやすいように図と式と場面を関連付けて、児童自らで説明させることで理解を深める。
- ・高学年では、つまずきやすい「割合」の学習が入ってくるので、「もとにする大きさ」「1と見る大きさ」などの用語をおさえ、数直線図を活用した授業を展開する。
- ・ノートには自分や友達の考え方を記録して、考えをまとめたり深めたりしていくために使えるよう指導する。振り返りを書くことで自身の学習状況を把握する習慣をつける。

○主体的に取り組む態度

- ・習熟度別少人数学習で個々の目標に合った学習を進める。クラス分けにはレディネステストを実施し、習熟と個の実態を考慮してコース分けをする。
- ・スクールタクトやノートで自分の考えを表現する学習を充実させ、自分の力で解決できることの達成感や成就感が得られるようにする。
- ・学習の振り返りを行い、指導のあり方を見直しをする。日常生活に生かせるような必要感のある学習問題を提示し、意欲的に問題解決に取り組めるようにする。

【 高学年 】

○知識・技能

- ・小数や分数のわり算などの四則計算については計算の仕方が十分身に付くよう、家庭学習や補習教室で繰り返し問題に取り組ませ、つまずくポイントを細かく見取り、個に応じた支援をしていく。
- ・図形の性質を十分理解できるよう、作図の経験を多くする。6年生では立体の見取り図を描くことで図形の特徴の理解を深めるなど継続的に作図の指導をする。
- ・三角定規やコンパスなどの学習教材の扱いは、ペアやグループの時間を設けて児童が互いに見合うなど、多様な活動を取り入れ基本の操作を習熟させる。

○思考・判断・表現

- ・数量関係をつかみやすくするために、数直線を書く習慣をつけさせ、「もとにする大きさ」「1と見る大きさ」などの用語を文と数直線図に関連付けて指導し視覚的にとらえさせる。
- ・言葉や数、式・図・表・グラフ・数直線などを使い解き方を説明する活動を多く取り入れる。論理的思考力の伸張を図る。また、友達の考え方も取り入れ、より一層考え方が深まるようにする。
- ・分数や小数の学習では、数量関係をつかみやすくするために、ICT機器を使い、数直線を提示するなどして視覚的に分かるようにする。
- ・問題に対する考えの根拠や問題解決の過程を、論理的に説明し合う活動を設け、筋道を立てて考えたり、説明したりする力を育てる。

○主体的に取り組む態度

- ・習熟度別少人数学習で個々の目標に合った学習を進める。クラス分けにはレディネステストを実施し、習熟と個の実態を考慮してコース分けをする。
- ・学習の振り返りを行い、指導のあり方を見直し、日常生活に生かせるような必要感のある学習問題を提示し、意欲的に問題解決に取り組めるようにする。

